

チャンネルZERO/まもる会。
自給自足はこぶねや
ネットワークプロジェクト

坂の上 零

元外務省ウクライナ大使

馬淵睦夫

子宮頸がんワクチン被害者連絡会

山田真美子

元銚子市長

岡野俊昭

なぜ すべてのお母さん、お父さん、 すべての日本人、必読です。 ワクチン薬害が 起きるのか

この書は、命を救う
真実のレポートです！

子宮頸がんワクチンは
「遺伝子組み換え」製剤だった



ヒカルランド



右から、馬淵睦夫氏、坂の上零氏、岡野俊昭氏

政府は子宮頸がんワクチン副反応問題を真摯に受け止め、原因を突き止める義務が生じている。

現在、世界中にこのワクチンの被害が起こっており、患者が苦しんでいる。

このワクチンがもたらした最大の負の遺産は、他のワクチンも被害に遭えば救済してもらえないのではないかという不安だ。

国の対応のまずさ、遅さ、利益相反の問題が、大きく国内のワクチン行政に疑いをもたらした。

国民の安全が足元から崩れないよう、この副反応問題を教訓に、解決のための抜本的な働きを国に願う。

全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会

代表 松藤美香



安倍総理、厚生労働大臣、安倍政権、
日本政府への陳情。

および、厚労省の全職員へのメッセージ

私たち被害者ときちんと向き合ってほしいです。
私たちとちゃんとした話し合いをしてください。

園田絵里菜

治療法を確立するためにも、形だけの拠点病院では
なく、副反応の症状を診^みることのできる医療機関の
整備を早急にお願いたします。

園田小百合



Taichiro Yos

本書を多くの人にすすめて、知らない人に教えてあげてください。遺伝子組み換えワクチンは、絶対に打たないようにしましょうと。

坂の上零の推測であり、テーマが違うので、本書には書きませんが、チップもこれから入れてくるかもしれません。これだけは必ず拒否してくださいね。

ワクチン注射を打つ前に、本書を読まれて、ご自身と愛する人の命を守ってください。

せっかく生まれてきてくれた大事な命を、遺伝子組み換え製剤のワクチン薬害の危険にさらすことは、親として絶対に慎重になるべきではないでしょうか。

大事なお子さまを守ってあげられるのは、お母さん、お父さん、あなただけしかいないのですから。

坂の上零



お母さん、親御さん、

WHOのすることにはおかしいことが多い。

厚生省、製薬会社ははっきり言って、利益を共有している。

WHO推奨などという言葉に騙^{だま}されてはいけませんよ。

真実を見抜きましょう。

そのためにも、日本人の生き方を大切にしましょう。

そうしたら、政府がどんな綺麗事を言ってきたても、騙され

ない。役人のウソにも騙されない。

そんな日本人の生き方と価値観を大事にしていきましょう。

馬淵睦夫



You Tube: Channel ZERO のまもる会のワクチン薬害問題を追及した番組。右から、馬淵睦夫氏、山田真美子氏、坂の上零氏（写真、メッセージ、番組から抜粋）。

ワクチンは製薬ビジネスなので、効く保証はありません。
予防する効果も不明なワクチンを打つ必要があるでしょうか？

むしろ、健康な人に打たせることで、長期的に、より悪い影響が出る
可能性があります。

そちらのほうが問題ではないでしょうか？

内海 聡



X JAPANのYOSHIKOOさまへ

子宮頸がんワクチン被害者の少女たちが、YOSHIKOOさん、あなたに会いたいのだそうです。一度だけでいいので、会ってあげてもらえませんか？

どうしてこういう話になっているかと言うと、取材の際に、あまりにも被害者の少女たちの姿に心を打たれて、私は思わず言ってしまった。

「なんでも一つ願いを叶えてあげると、一つ欲しいモノ言っただけでいいかな？」と。

私は、お洋服かジュエリーだろうと思っていました。何を頼まれても買っつもりでいました。が、違いました。

なんと、YOSHIKOOに最後に会いたい、と言うのです。なんでも叶えてあげると約束した手前、叶えてあげたくて、こうして書籍にて、YOSHIKOOさんご本人に呼びかけています。池田マネージャーさんに以前依頼しましたが、別のマネージャーさんに断られました。安倍政権の政策を批判する記事をよく書いている坂の上零と付き合うと、安倍政権からならまれたら困るか

らとかいう理由で、却下されました。

しかし、私があなたに会いたいのではない。ワクチン被害者の少女たちが死ぬ前にあなたに会いたいのです。

ワクチンで人生を台無しにされ、苦しんでいる被害者の少女たちの一生に一度のお願いなのです。ですから、YOSHIKIさん、本書をもし読まれたら、ぜひご連絡をこまめくださいまして、少女たちに合わせてあげてください。年々体が弱くなっており、症状も重症化しています。

連絡先：<http://mamorukaisakanoue.com> のお問合せから、メールください。

このワクチン薬害は神経を冒し、脳も冒しますので、ワクチンを一度体内に入れてしまった被害者たちには、あまり時間がないのです。

ですから、YOSHIKIさん、お早目に彼女たちに会ってあげていただけたら、この上ない幸いです。

ご連絡、お待ちしております。

坂の上零

25年前、私は国家が国民を殺しにかかる時代の到来を予言していました！—— 19

未来を予知し、警鐘を鳴らし、「変人」と呼ばれる—— 24

「やっど、そのときが来た」グローバリストたちはほくそ笑んでいる—— 27

遺伝子組み換え製剤のワクチン、その壮絶な副作用—— 28

被害者の少女たちの想いは、加害者である厚労省の役人の胸に届くのだろうか？—— 31

【第1部】

子宮頸がんワクチン推進の裏に隠された

政府、官僚、製薬会社の目的と超長期的ビジョン

厚生労働省の非常に胡散臭いワクチンをめぐる人為的な誘導について —— 37

◎そもそも子宮頸がんワクチンとは何なのか!? —— 37

◎3・11直後のACジャパンの異様なキャンペーンで

360万人の女子学生が打たされた!? —— 42

◎いろいろながんがあるのになぜ子宮頸がんだけにワクチンが

特別に積極的に推奨されるのか!? —— 44

◎いかががわしきこのワクチンを推奨した国会議員たちは実名を出していい —— 46

◎イギリス、アメリカから来るこのワクチンは5万〜7万円もする —— 48

◎家畜やネズミの避妊薬が含まれているのは本当なのか!? —— 49

◎これを認可した厚生労働省の役人、政治家のお嬢さんにまず打たせてください —— 50

◎ワクチンとは病原菌を埋め込むこと、じわじわ殺す時限爆弾である! —— 52

人ごとではない! 被害者の克明な実態をお知らせします —— 60

◎異常なほどの不随意運動で自分の体がコントロールできない…… —— 60

◎子供に付き添ってあげられないシングルマザーの悲鳴……—— 63

◎この映像をまず松あきら元議員、三原じゅん子議員、舛添元都知事に見てもらいたい—— 65

◎製薬会社の利益、これが大きな悪い流れをつくってしまったている！—— 67

被害者たちは協力医療機関をたらい回しさせられている！—— 71

◎医者、病院、製薬会社とのつながり—— 71

◎ワクチンとの因果関係は機能性身体症状という言葉で心因性にされ否定されている—— 75

◎子宮頸がんワクチンは、いまだかつてない本邦初の遺伝子組み換え製剤だった！—— 77

◎これも危ない！ 肺炎球菌、Hib（インフルエンザ菌b型）も

遺伝子組み換えワクチンだった!? —— 80

◎蛾のタンパク質、アルミニウム、重金属など……これは人を殺すワクチンです！—— 82

◎声を上げませんか!?

厚労省の役人さん、職員さん、あなた方は共犯者になってしまいますよ—— 84

◎少なくとも3〜6年間は子育てに専念できるような

女性が輝く社会を目指すべきです—— 85

このワクチンにはがん予防の効果の証明が一切ない! —— 90

◎子宮頸がんワクチンを男性にも打とうとする動き —— 90

◎脳過敏症、パーキンソンやレビー小体型認知症そのものといった

多種多様な症状が出る —— 96

◎厚生省指定の医療機関では

「脳に異常が出ていることを認めてはいけない」「心の問題」にすりかえたい! —— 98

女子大生を使ったワクチンキャンペーン「ピンクリボン運動」のおぞましき背景 —— 101

◎NPO法人のキャンペーン団体にお金が回っている!? —— 101

◎横浜では自治体の福祉局の職員が製薬企業からお金をもらっている!? —— 105

◎欧米の製薬会社とその下請の日本の製薬会社と厚生労働省ははっきり言ってグル、

だから助成し続けている —— 106

◎世界的利権のネットワーク、WHOもメジャーな製薬会社の支援で成り立っている!? —— 107

◎良心的な医者、官僚、政治家たちのネットワークをつくって対抗しましょう —— 111

救済ゼロ！ 子宮頸がんワクチンの被害者たちからの声 —— 119

◎ 導入を推進した政治家は被害者と直接会ってください！ —— 119

◎ 被害をもうこれ以上増やさない、救済に全力を尽くす、

そのために国会議員は協力してください —— 122

子宮頸がんワクチン被害から私たちが望むこと 松藤美香 —— 126

産婦人科医 ドクターXのメッセー ジ 西洋医学と東洋医学。HPVワクチンについての私見 —— 133

HPVワクチンの被害に遭って 梅本美有・邦子(母) —— 141

子宮頸がんワクチン被害者とその家族へのインタビュー —— 155

◎ 市や学校から「無料だから打ちませんか」という手紙が来て打ちました —— 155

◎ 接種後、だるさ、関節痛、不正出血、失神、足・体が勝手に動き出す…… —— 162

◎ 接種して2年後、ついに起き上がれなくなる —— 167

◎ 今も普通に歩けるのが10分ぐらい、どこにも出かけられない —— 169

- ◎ 学校生活においても苦境の現状が続く—— 172
- ◎ 遺伝子組み換えワクチンだと知っていたら打たせることはなかった—— 175
- ◎ 遺伝子組み換えと知っていたのは製薬会社と厚生労働省、これは大変な問題です！—— 178
- ◎ 裏で癒着があるから子宮頸がんワクチンの被害をTV局は報道しない—— 180
- ◎ 誇りをなくした日本病の国には明るい未来など来ないと断言できます—— 182
- ◎ 厚生労働省の医学部会のお医者さんたちは
ここに至るもまだワクチン接種を推進している!?—— 184
- ◎ 被害者「ワクチンを打たないでがんになってから治したほうが絶対いい」—— 186
- ◎ 「とりあえず元の生活に戻りたい」娘さんたちのこれからの夢—— 187
- ◎ Hibと肺炎球菌ワクチンも遺伝子組み換えです—— 189
- ◎ 接種前の状況に戻してほしい—— 190
- ◎ 「学校で毎日倒れられても困るんだよ」「重いんだよ」／私はこうして見捨てられた—— 193
- ◎ 学校からは「休学してほしい」と／たぶん学校には来てほしくなかったんだと思う—— 195
- ◎ 泣きながら家に帰る／学年主任の先生から言われた心ない言葉—— 198
- ◎ 人の痛みのわからない人ばかりが先生、医者になっている—— 200

◎記憶が曖昧になる症状／病院に行っても治療法がない――
201

被害者の少女たちから、政府、厚労省へのメッセージ――
208

馬淵睦夫先生のメッセージ――
209

坂の上零のメッセージ――
210

岡野俊昭――
212

厚生労働大臣への陳情――
213

日本の総理大臣へ――
214

三原じゅん子さまへ――
219

〔第2部〕

私たちは信じてはいけない人たちに

命を預けてしまっている／坂の上零の直言

なぜワクチン薬害は定期的に繰り返されるのか — 223

◎ ワクチン薬害が起きる最大の原因を突き詰めると見えてくるもの — 223

◎ ワクチン薬害の背後にあると坂の上零が考える日本政府の立場の弱さ — 228

◎ ワクチンは「予防」と称して、健康な人に薬を売れるので、儲かるビジネスモデル — 237

◎ 日本人の日本食離れ、食の西洋化政策とも連動した「日本人の不健康化、弱体化」 — 241

◎ 日本人に白い砂糖、甘いものを食べることをいかに習慣化させるかが戦略だった — 243

◎ 子宮頸がんワクチンを推奨し、定期接種を叫ぶ人たち — 247

◎ 科学的データと論理的思考に基づき思考すべきだが…… — 253

◎ 天才研究者、天才芸術家、際立った技術者に投資しない日本政府と日本の金融機関 — 255

◎ 巨大利権である日本の医療ゆえに、国家予算の医療費の中に税金の無駄が多い — 259

産婦人科医・内科医、ドクターXはかく語りき — 261

◎ 産婦人科学会はじめ、推奨する背景にあるもの — 261

お母様、お父さまへ ワクチンの賢い断り方の参考(二例)—— 271

◎お子さまのワクチン接種を拒否しても、しつこく要求される場合の対処法(一例)—— 275

◎坂の上零からのメッセージ—— 282

◎坂の上零の子測・ワクチンの後に来るもの—— 283

安倍晋三総理大臣、日本政府 厚生労働大臣へ—— 286

読者の皆さまへ 日本政府、厚生労働省の職員の皆さまへ—— 288

終わりに—— 292

25年前、私は国家が国民を殺しにかかる時代の到来を予言していました！

坂の上零

本書が出版される年以降から、おそらく、日本で赤ちゃんや幼児、老人などに適用される予防注射ワクチンの多くが、遺伝子組み換え製剤に変わっていくと聞いている。

子宮頸がんワクチンという名前を付けられて、大々的な国家キャンペーンまで展開して大売り出しセールがなされた本邦初の遺伝子組み換え製剤のワクチンは、重篤な副作用を引き起こした。

異常な体の痙攣^{けいれん}、記憶障害、脳障害、神経障害、不妊などの深刻な副作用を引き起こしてから、社会問題となり、接種率がグンと減った。

しかし、相変わらず、誰も責任を取らないまま、産婦人科学会や一部の医者たちは、子宮頸がんワクチンを積極的に推奨している。

外資製薬会社も厚生労働省同様に、「重篤な症状は、ワクチンが原因ではない。脳症でもない」として、一切の責任を取らないまま裁判で深刻な薬害被害に苦しむ被害者たちと戦う姿勢

を見せているが、そうしている間に、安全性が疑問視されているこの種の遺伝子組み換え製剤のワクチンは、処方を若干変えたり、別の病名を付けるなりして、別の包装紙に包まれて、他のワクチンになって再度、売り出されていくのかもしれない。

そういうえば、三種混合がいつの間にか五種混合予防注射に変わっていたり、様々な病目を付けて、助成金対象のワクチンとしてすっかり母子手帳にまでリストアップされて、予防注射が売り出されている……。

また多くの犠牲者を将来的につくっていくことにならねばよいのだが……。そうならないことを切に願っているが、必ずそうなるであろうと私は肌身で感じている。

それは私が20年も前から予告した通りに時代が動いてきたからであり、今の時代の本質と背景を考えると、おそらくこの悪い予感の中してしまうだろう。

もはや信じる者は、殺される時代到来というわけである。

私が25年も前から予告し、警鐘を鳴らしてきた内容は次の通りだ。

- ① 政府よる自国民の虐殺行為が行われるようになる。
- ② 政府が金で買われ、支配されて、国家と国民を裏切り、自国へのテロ策謀をする。
- ③ 食には毒が盛られ、医療に欺かれ、ワクチンで殺される。
- ④ 挙句、人体にチップ（666）を埋め込まれてしまう。
- ⑤ そうなると人間ではなくなり、人間からゾンビが生まれてきてしまう。

- ⑥ 世界中の国家をなくし、ひとつの派遣政府のような管理体制を樹立する（ワンワールド化）
- ⑦ 過剰な資本主義、グローバリズムの破綻と、世界中が騙される。
- ⑧ 現在の金融システム、マネーの崩壊と、銀行がなくなる。
- ⑨ 大淘汰がやってくる。人々の多くは「日本病」ゆえ、正義になりきれず、悪に加担する（無関心、無行動、的外れな活動も、すべて悪に加担していることになる）。
- ⑩ それ以降の世界は、地球規模の全体主義のような旧ソ連なみの徹底管理されたファシズム社会となる。NWO（新社会秩序）の樹立と、日本の徹底崩壊。
- ⑪ 日本の復活があれば、大淘汰の後の世界から、生き残る魂のみ、次の時代の土台をつくっていく（＝市民による直接民主主義の、自給自足コミュニティの世界規模の創出）。

私はこのようなことを昔から言い続け、警鐘を鳴らし続けてきた。小説も書いてきた。

まだ「陰謀論」などという造語もつくられていなかった時代のことである。中丸薫さんや、ベンジャミン・フルフォードさん、リチャード・コシミズさんが登場するずっと前のことだ。

私の友人はユースタス・マリンスズ氏であり、彼が日本に来たときには、私の家に泊まっていた。

あの当時は、「陰謀論」という言葉さえ誕生しておらず、情報も極めて少なく、まだ多くの

ことが闇に包まれ、秘密のベールが幾重にも重なりあった状態だった。

アメリカでは、この種のことを語るだけで、白い目で見られた。ユダヤ人のことを、JEWと呼ぶことも遠慮がちであり、黒人を、ニガーと呼ぶような「言ってはならない言葉」という風潮があった。

また、「アメリカは正義の国だ。世界で一番の国だ。アメリカは神の造られた偉大な国だ」と教えられていたアメリカ人たちの中にあつて、本当のアメリカの姿、アメリカが実際に何をしてきたのか、アメリカの正体を語ることは、タブー中のタブーであつた。

さらに、アメリカ国民は、北朝鮮の民のように洗脳されており、本当の自国の歴史や実態を知らない。アメリカが金融マフィアの奴隷国家であり、アメリカを私物化している真の隠れた支配者により、アメリカは、常に戦争をしていなければ、経済が持たないことなども、当時のアメリカ人は知らなかつた。

アメリカが、アメリカ国民の国ではないこと、神の国だと信じているアメリカが、実は、金融マフィアに支配された悪魔崇拝者の国となつており、他国を理不尽の限りを尽くして搾取し、侵略してきた歴史があることをやんわりと説明しようとする、露骨に嫌な顔をされ、真剣に聞く人はいなかつた。アメリカでは、詐欺医療とインチキ薬で財を成したロククフェラーはアメリカの成功の象徴であつて尊敬されており、ロククフェラーがどんなに残忍で芯まで悪魔に蝕むしばまれた詐欺師であるか、どれほどの悪人かを知る者も少なかつた。

25年前ぐらいのアメリカや日本は、まだ豊かなときであり、人々には余裕があったので、政治や世界の真相など、一部のインテリ層以外、一般の庶民は興味を示さなかった。

そうだ。自分の暮らしに直結していないと思っていたから、誰も世界の真相になど興味なかった。目の前の世界がすべての現実で、背後で操られているなどは想像だにしない。

それでも、私たちごく少数の変人たちは、黄色い目で見られながらも、それぞれの分野を調査し、闇に光を当てんと、内情を調べてきたのだ。

その努力と賢明な調査の蓄積が、この分野の道をつくり、隠されてきた多くのことを暴き出し、今では多くの人が知るまでになった。

私観だが、この分野で最も大きな貢献をした人は、広瀬隆先生だろう。

集英社から出版された『赤い楯』全巻は必読書であり、すべてのバイブルになっていると言っても過言ではない。『赤い楯』から私は多くのことを学んだ。

人によれば、あれも操作されていると言う人もいるが、それには私は懐疑的だ。

あの何にも情報がなかった時代、よく執念で、あそこまで調査したなあ、と深い敬意とともに、広瀬隆先生の作家としての執念に大いに打たれた。私の目を開いた本だった。

なんとしても真実を世界に届けたい。

隠された秘密のベールに切り込み、知るべき真実を解明したい。

そんな信念で、あのお名著作『赤い楯』を書かれたのだろう。広瀬隆先生の次には、太田龍先生

やユースタス・マリンス先生が立役者だろう。

想像するのは難しいことではないだろうけど、私はずいぶんと変人扱いされてきた。

当然である。まだ日本もアメリカともに豊かであったので、仕事はたくさんあり、若者の多くは就職にさほど困ることもなく、ここまで社会が閉塞的ではなく、チャンスも多くあった。政治には誰もが関心がなかった幸いな時代であったのだから。

若者が政治活動をしたり、政治に関心が出てくる時代は、飽食の時代ではなく、貧しい時代や時代の変わり目、一種の退廃感が覆う時代だろうと思う。

そんな社会にまだ余裕があった時代から、私は変人扱いされても、一貫して未来の危機を訴え続けてきた。そのために、どうやって人類を救済するのか、その過程を描いた『天使になった大統領』という小説も書いた（全8巻で、4巻までともはつよし社にて出版済）。

未来を予知し、警鐘を鳴らし、「変人」と呼ばれる

一貫して、「未来の世界では、日本を含め、政府が堂々と自国民の質を低め、自国民を殺戮する。チップを人体に埋め込んで、奴隷にして一元管理しようとしてくる」と予言してきたが、そのおかげで、心ないことを言われることも多々あった。

「ナンセンスだ。政府が自国民を意図的に大量に殺戮するだって？ バカじゃないの」

「国家がなくなり、ワンワールドになって、世界中がファシズムとなり、大量に人が死ぬだつて？ そんなことあるものか！」

「医者や政府が、自国民を殺すだつて？ 世界が共産主義になって、アメリカが内部崩壊するだつて？ アメリカは神が作った正義の国だよ。レイは、狂っている」

「レイはジャズピアノストだけやっていたらいいよ。芸術家だから、ちよつと気が狂っているのだね。可哀想だね」

みんな私をあざ笑った。

しかし、25年後、どうなったか？

私が予言してきた通りになっているのではないだろうか？

私個人は、私の予言が外れてもらいたかった。そのほうが人類の幸せと生存にはよいからだ。私が奇人変人であつて、陰謀論のようなたわごとを言っている人で終わってもらいたかったのは、何を隠そう、この私自身であつた。

しかし、現実は違つた。何ひとつ狂わずに、私が予言した通りに、その後の時代が動いていき、現在に至っている。

あれから25年後の2018年現在、世界はどうなったのか？

日本は、どうなったのか？

ワクチンや、予防注射、薬剤、農薬、化学添加物により、国民はじわじわと毒を注入される

ようになってきている。これからも、この異常事態はあらためられることはなく際立つばかり。厚生省により淡々と進められていくだろう。

さらに、モンサント（バイエル社が買収）やデュポン社、ベクトル社などの巨大化学会社による水の独占、種子や家畜の遺伝子操作、食料の遺伝子組み換えや支配などで、多くの国々の人民は極めて弱い立場に立たされていく。自由貿易という名のもとで、力のある多国籍企業が国民を守る主権を各国の政府から奪い取り、その国で暮らしてきた人々の生きる権利を著しく阻害するようになっていくのは間違いない。

我が国日本は、T P P協定のための自国の国内用整備のために、水道民営化、種子法改正などで、自虐的な自殺政策をやらされているが、これらは一切まともに報道されない。

日本は、アメリカの言いなりの安倍政権と日本政府の自分で自分の首を絞めるような自虐政策をやらされている。これは北朝鮮でさえびっくりするようなファシズム独裁社会にさせられているのであり、日本には真の民主主義などすでに存在していない状況なのだ。これからもうとそうなっていく。監視ファシズム社会となるだろう。

モノがわかってくればくるほど、日本は絶望の中にあり、日本社会は、国家の中枢から大企業、銀行に至るまで、「アリの集団自殺」のような自虐行為をしたことがわかるのである。

T P P協定も国民に一切秘密にして、何ひとつまともに審議されることなく、安倍政権により水面下で推進され、調印されてしまった。こうなると日本の置かれた現状と、今後の情勢は、

極めてお先真っ暗な、八方ふさがりの状態となったのである。

しかし、やっと25年以上経過して、私の言ってきたことが本当だった、ウソではなかったとわかりだして、現在は、聞く耳を持つてくださる人も多く出てきた。講演にも呼ばれるようになったが、それでも、まだまだ多くの人は「眠ったまま」の状態である。

これからも真実告知と、世界をいかにNOW（世界新秩序）から救済するのか、その具体的な方法も、近々書籍にまとめて、これを世界に広める活動に尽力していきたい。

「やっと、そのときが来た」グローバリストたちはほくそ笑んでいる

現在、国家による自国民への本格的な攻撃が始まった。

しかも、TPP後には、いよいよ畳みかけるように露骨になってくるだろう。もう彼らは陰には隠れていないのだ。最近では、堂々と正体を明かして、日本の息の根を止めるために、日本政府を使って、彼らの邪悪な政策を遂行させている。

① 日本を終焉しゅうえんさせる移民政策

② 日本を封じ込め立ち上がれなくするTPP

③ 日本人を病気にしてゆく種子法改正、水道民営化など……

あげたらきりが無いが、これらだけでも、日本が終焉するような、あからさまな売国行為、

国家テロ行為であるが、こともあろうに、このような明らかな殺人行為に匹敵する国家反逆テロのような政策を、アメリカトップの99%を牛耳る1%の彼らグローバリストたちは、官邸を通じて、日本政府にやらせるようになった。

そして、本書のメインテーマである、ワクチンもその流れの中に存在している。

決して、ワクチンだけ単独であるのではなく、日本を潰す他の多くの政策に連動して、日本を弱体化させて、日本人を病気にして、じわじわ殺すための「包括的なプラン」の一環として、ワクチン薬害問題も、意図的につくり出されてきたのだ。もちろん、彼らの利益を確保するビジネスとして。

遺伝子組み換え製剤のワクチン、その壮絶な副作用

彼らはいずれチップを人体に入れ込んでくるだろう。多くの人が無知なまま、その被害者になるだろう。ワクチンを打ってしまったがゆえにチップを入れられてしまうことになりかねないのである。私がこの子宮頸がんワクチンを取材し、追求することになった理由は、こうした未来の到来に対して事前に警鐘を鳴らすためだったが、それだけではない。

作家として、被害者の少女たちを取材したときだった。

彼女たちの苦しみがあまりに重く、それは涙なしでは見れない状況であったからだ。

まだ10代の少女たちが、すでに脳をやられたり、ボタンと倒れて、記憶を失ったり、神経を冒され、全身が異様な動きをしたり、体が勝手に動いたり、頭が割れるほどの痛みでのた打ち回ったり……。

少女たちは、このワクチンを打ってから、人生が一変してしまい、その年齢では背負いきれないような大きな試練を負わされたのだ。学校にも通えなくなり、友達からも距離を置かれ、徐々に普通の暮らしができなくなっていく恐怖の中で、それでも、頑張って未来に希望を見出そうとしていたけなげな姿があった。

生きるつらさを味わったのは、被害者のご家族も同様だった。

自分たちの娘が、突如、制御不能なほどに暴れだす。あまりに異常な光景に、どうしてよいのかもわからず、仕事にも行けなくなった母親たちがたくさんいる。

治療法もない中、あちこちの病院をたらい回しにされた。医者や学校の先生、友達などから心ないことを言われて傷つく娘を見ながら、「ワクチンさえ打たなかったら、こんな目には遭わなかったのに」と何度、予防注射を打ったことを悔やんだことだろう。

「私が、政府や学校の先生を信じて、予防注射を打ちに娘を連れて行きさえしなければ、娘の人生を台無しになどしなかった……」

母たちは、ワクチンを打ちに連れて行った自分を責めていた。親子ともども、大きな試練を背負うことになった子宮頸がんワクチン。

その壮絶な副作用は尋常ではなく、被害者の家族の暮らしを180度変えてしまった。

自殺まで考えたと言うほど、受け入れたくない現実の中で、それでも一所懸命に生きようとされている姿を見て、私の中で何かが動かされたのだ。

なんとしても、この少女たちの苦しみをやわらげてあげたい。

せめて、この少女たちの実態をちゃんと世間に報道して、広く知ってもらい、助けを求めたいと、私は思った。

厚生労働省に謝罪をさせて、被害者の救済と賠償をさせ、このいかがわしい外資製薬会社による遺伝子組み換え製剤のワクチンは一切禁止にしなければ、第二、第三の被害者が出てしまう。

遺伝子組み換え製剤のワクチンなど、そもそも人に打つべきではない。

ジャーナリストとして、被害者の救済と、子宮頸がんワクチン停止を訴えていこう！

その思いが、まもる会で行ってきた「子宮頸がんワクチンの薬害レポート、真実の報道をする活動」となっていったのだった。

被害者の少女たちの想いは、加害者である厚労省の役人の胸に届くのだろうか？

子宮頸がんワクチンは、人工的につくられた遺伝子組み換え製剤だった。

私はこのワクチンの取材とチャンネルZEROの番組収録中に、本書で紹介する対談を通じて、これを知るに至ったが、とても驚いている。最初に思ったことは、こうである。

よくも、人間が、他の人間に対して、ここまで残忍なことができるものだ！

自国民に対して、しかも、罪もない少女たちに対して……。

これが、厚労省の官僚たちのしていることだ。

なんとという欺瞞ぎまんに満ちた狂った世の中だろう。

これが官僚のする仕事なら、本当に恥はずかしい。

こんな薄汚い行為をするために、公務員になったのだろうか。

天下国家に尽くさず、自分の保身と組織のために、外資製薬会社の利益のために、遺伝子組み換えワクチンを国民に打たせるなんて。

悪いことを悪いとも言えず、沈黙している省内の官僚たちの卑怯ひきょうな姿を恥はじる。

その犠牲になるのは、いつも正しい情報がない国民と罪なき子どもたち……

良心が死んだ人間。

正義と恥を失った人間。

……日本病の官僚たち。

人間とは、自分の保身や立場のためなら、他者にここまで残酷になれる生き物なんだなあ……。

人間とは、なんと罪深いんだろう……。

少女たちの無念な気持ちを胸に刻みながら、ぜひとも本書を最後までご一読いただき、ワクチン薬害がどういうものか、ぜひ知っていただけたら幸いです。

次の薬害ワクチンはまたどんどん出てくるだろう。

しかし、様々な病名を付けた予防注射が、本当にその病気を予防するという医学的な証明があるわけではない。子宮頸がんワクチンが、本当に子宮頸がんを予防した実例もよくわからない状態なのであるならば、そういうものを助成までして、体内に入れさせるほうがおかしいのである。この危険に、まず世間の人たちに気がついてもらいたいのだ。

次の犠牲者に、あなたがならないでほしい。

25年前、私は国家が国民を殺しにかかる時代の到来を予言していました！

あなたの子どもや愛する人を、不要なワクチンから守ってあげてほしい。

そのために、必読書となるように、子宮頸がんワクチンの検証と、ワクチン薬害の被害者を取材した、壮絶な記録を本書にまとめた。本書を一家に一冊置いてもらいたい。

本書があなたと、あなたの愛する人を、未来のチップとワクチンの薬害から守りますように。